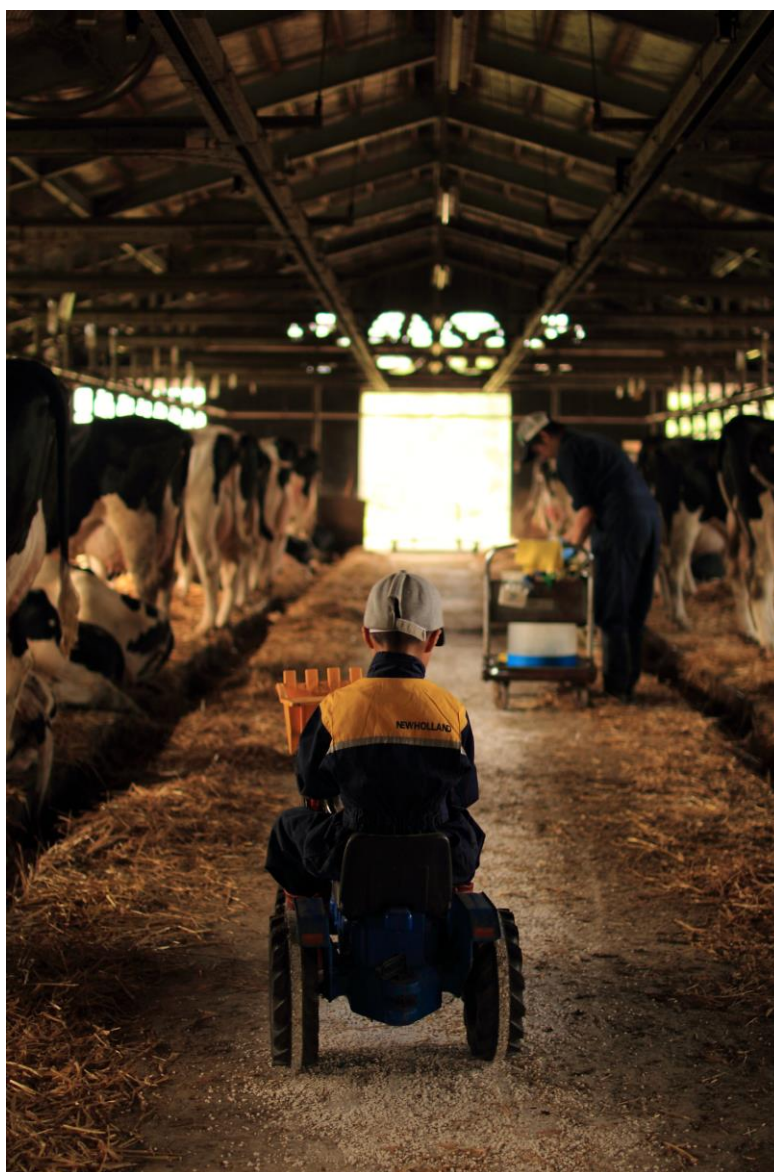


経営苦境にある十勝の酪農業への支援を求める特別決議

～ 国産チーズの自給率向上を図るため生乳の安定的な生産の拡大を！ ～

～ 10年先20年先を見据えた酪農政策の確立と十分な予算の確保を！ ～

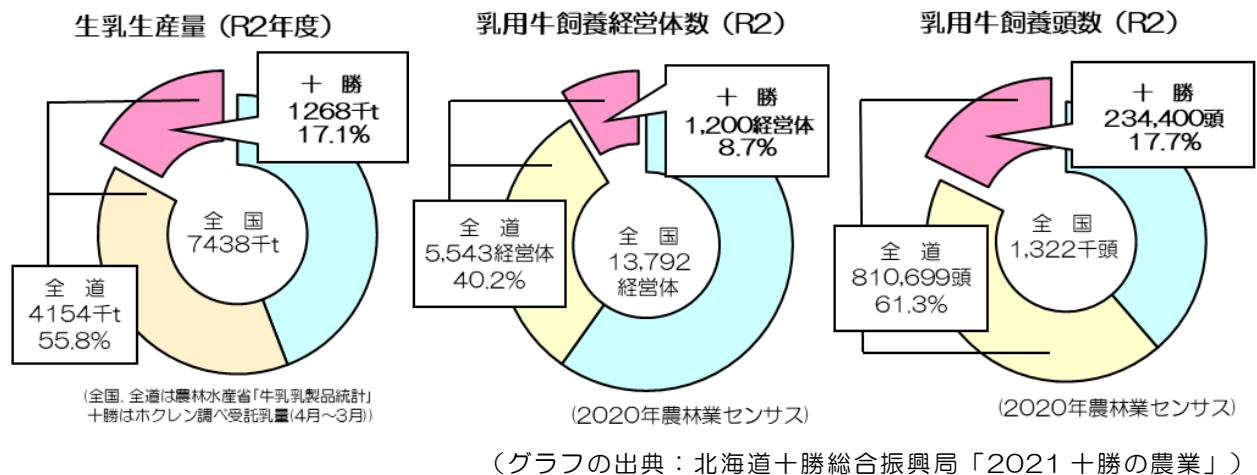


第4回とがち農業・農村フォトコンテスト
グランプリ作品「とうちゃん、後継者はオレだ！」

令和5年2月24日

十勝町村会

酪農ヘルパー、コントラクター組織、TMRセンター、哺育育成施設、公共育成牧場等生産支援組織の拡充、ロボット搾乳施設などICTの導入や総合的な飼養管理技術の向上などを背景に、十勝の生乳生産量は増産を続け、2020年には、全道の31%、全国の17%を占める位置にあり、十勝は我が国最大級の酪農基地としての役割を果たしています。



しかしながら、昨年来、ロシアによるウクライナ侵攻や世界的な物価高が背景にある中、多くを輸入に頼っている穀物飼料の価格が高騰し、電気料が上がり、副収入となる子牛の販売価格が急落するなど、経営が急激に悪化しています。

また、長期化するコロナ禍に伴い牛乳や乳製品の消費が低迷していることから、生乳の生産抑制も迫られ、十勝の酪農業は、二重苦、三重苦の状況に直面しています。

酪農は 365 日休みがありません。酪農業のかつて経験したことのない危機的な状況に、私たち 18 町村は、それぞれ独自支援対策に取り組んできましたが、今後における支援対策の財源確保は大変難しい状況にあります。

十勝の開拓は、民間の開拓移民により進められ、十勝地域は、決して国の補助金や交付金に甘える意識はありませんが、長年生産コストの削減に取り組んできており、農業者や地域の努力には限界があることから、次の事項について要望します。

記

1 生乳の安定的な生産の拡大（国産チーズ自給力向上）

国内におけるチーズ需要は増加しているものの、国産チーズのシェアは1割強にとどまっていることから、輸入原料から国産原料に振り向け、国産チーズの自給率向上を図ることにより、十勝の酪農業における生乳の安定的な生産拡大を実現すること。

また、国産の生乳乳製品需要・消費拡大に向けた取組を強化すること。

【参考】国内のチーズ需要（千ト） *農水省の資料を基に北海道町村会で作成

年 度	2003	2013	2018	2020
需 要 量	239	278	335	339
輸 入 量	204	230	289	292
国産生産量	35	49	45	48
国産シェア	15%	18%	13%	14%

2 10年先・20年先を見据えた酪農政策の確立と十分な予算の確保

我が国における食料の安定供給と自給率の向上に大きく寄与している十勝の酪農業は、現在、飼料など農業生産資材や電気料金の高騰により危機的な状況に直面しており、この状況が続けば数多くの生産者の減少が懸念されるところであり、農業者が意欲を持って持続可能な経営を展開できるよう、十分な予算を確保し酪農支援対策を講じること。

また、当面の対策に加え、10年先・20年先を見据えた酪農政策を確立し、長期的な視野に立って経営が持続できるよう、支援制度は恒久的な制度とした上で、予算を毎年度十分に確保すること。

以上、決議する。

令和5年2月24日

十勝町村会 通常総会

十勝町村会

音更町長	小野信次
士幌町長	高木康弘
上士幌町長	竹中貢
鹿追町長	喜井知己
新得町長	浜田正利
清水町長	阿部一男
芽室町長	手島旭
中札内村長	森田匡彦
更別村長	西山猛
大樹町長	酒森正人
広尾町長	村瀬優
幕別町長	飯田晴義
池田町長	安井美裕
豊頃町長	按田武
本別町長	佐々木基裕
足寄町長	渡辺俊一
陸別町長	野尻秀隆
浦幌町長	水澤一廣